

下記は民間療法です。注意点を守り、身体の変化を観察しながら、自己責任でお願い致します  
(過去30年以上、シモンチーニ博士は数多くの患者を「炭酸水素ナトリウム」を用いて治療してきましたが、深刻な糖尿病性ケトアシドーシス、心臓呼吸性蘇生、妊娠、血液透析、腹膜透析、薬理中毒、肝障害、血管手術など、他に特別な状況を抱えていても、何の問題も発生していません。ただし、心臓、腎臓、肝臓に重篤な問題を抱えている患者に対しては、その患者が耐えうる最大量に調整して治療が行われているとのことです)

## 【病気予防のために】

「重曹」(炭酸水素ナトリウム)は、ガン、被曝、肝臓病、腎臓病、胃潰瘍、便秘、痛風、アレルギー、インフルエンザ、虫歯などあらゆる病気を治す効果があります。

### <飲み方>

- コップ一杯分の水に小さじ“半分”程度をきちんと溶かして重曹水を作り、空腹時にそれを飲むだけ。  
1日、1~3回くらいの範囲でご自分の適量をお探しく下さい(5ccの小さじ一杯=すりきりで3~4g)。  
\*生体内でも作られている重曹は、一般にどんな患者でも受け入れられるものですが(お腹にカビが異常増殖している方を除く)、ナトリウムの摂り過ぎは危険です。大人で『1日5g』を超えないように摂取して下さい(野菜等に多く含まれるカリウムを摂っていれば、ナトリウムが体内に過剰蓄積して害を及ぼすことはそうそうありません。ですが、病状が重い方は1日1回小さじ1/4から始めて、1週間ほど問題がなければ、次の週から小さじ半量を1回というような形でゆっくりと進めてください)。年齢・症状に応じて適宜摂取量の加減が必要で、「ゲップがたくさん出る」、「下痢症状が強い」場合は、摂り過ぎなので減量してください(もしくは、一日おきとか間隔を置いて下さい)。  
「手や顔のむくみ・腫れ」が出るなど異常を感じた場合は、即中止してください。  
\*重曹を飲む前後30分は、水以外は飲食しないようにして下さい(食後は3時間空けて下さい)。  
\*抗生物質の使い過ぎ、甘いものを摂り過ぎると、おなかにカビが異常増殖している場合があります。その場合、そちらへの対処が優先されます(「おなかのカビが病気の原因だった」内山葉子著参照)。  
\*以下に該当する方は、この療法は禁忌です。<https://medical.nikkeibp.co.jp/inc/all/drugdic/prd/23/2344004X1097.html>  
妊婦・産婦  
ナトリウム摂取制限を必要とする方(高ナトリウム血症、浮腫、妊娠高血圧症候群等)  
ヘキサミン投与中の方  
重篤な消化性潰瘍、腎障害、心機能障害、肺機能障害のある方  
低クロル性アルカローシス等の電解質失調の方

## 【重曹で虫歯を治療する方法】

食後の歯磨き後に水100ccに小さじ半分程度入れ、溶かしきった重曹で約30秒うがいをするだけ。

## 【放射能対策として】

- 放射性毒を体内から排出するためには、お風呂のお湯に海塩と重曹を40gずつ入れてください。  
毎日(or一日おき等)20~30分間の入浴を続けてください。  
\*塩、重曹は、給湯器や風呂釜の配管系を劣化(腐食)させる場合があります。使用しても差し支えないか、使用機器の取扱説明書でご確認ください。  
\*重曹で放射能除去 [http://news.j-houdou.com/kusa/keijiban\\_toko.php?jid=10001&mid=2494](http://news.j-houdou.com/kusa/keijiban_toko.php?jid=10001&mid=2494)

## 【重曹の種類】

化学合成された製品よりも、天然の鉱石からつくられたもので、食品用のものがおすすめです。  
入浴用の天然物は、食用に適さない場合があるのでご注意ください。

- ◎天然重曹 <https://item.rakuten.co.jp/auc-garlic/tennennzyuusou15000/>  
[https://item.rakuten.co.jp/ns-manin/0011/?s-id=ph\\_pc\\_itemname](https://item.rakuten.co.jp/ns-manin/0011/?s-id=ph_pc_itemname)  
(いずれもアメリカ、Natural Soda Inc社の“ナーコライト”から作られた最高品質の天然重曹)  
◎炭酸水素ナトリウム <https://item.rakuten.co.jp/sundrug/4987286307763/>  
(重曹)

## —補足①—重曹が効くメカニズム—

### ◆アシドーシス（体内酸性化）解消による効果

ガン、慢性病等は、身体や血液が**酸性に傾くこと**であり、アルカリ性の重曹はそれを中和します。表現を変えると、電子を奪われる（＝酸化）から病気になる、電子を与え還元すれば、様々な病気が治ります。しかし、“**精製糖質**”を過剰摂取している現代人は、糖代謝が追いつかず、ピルビン酸・乳酸等が溜まって**酸化**します。乳酸が溜まると尿酸も溜まるので、身体はどんどん**酸性に傾いて**“病”に向かいます。そこで、**電子を余分に持っているアルカリ性の重曹水**を飲めば、酸性に傾きにくくなり、予防になります。さらに、糖質・乳酸の代謝を正常化する**ビタミンやミネラルも摂取**すれば、もっと効果的です。シモンチーニ博士が、重曹・**ビタミンB群・C**の点滴でガンを治しているのは、理屈に合っているのです。ここで、ガンを例に、もう少し説明を加えます。

「重曹」は、食品添加物として使用されています。用法・用量を守れば医薬にもなります。ただ、決して乱用してはいけません。基本はあくまでも「**食事療法（栄養療法・食事改善）**」です。

しかし、その「食事療法」を実行されているガン患者さんであっても、**空腹時に**（必ず空腹の時です）

「重曹水」を飲用すれば、血流を通して「重曹」のアルカリがガン細胞まで届き、そのガン細胞で生じている「**乳酸アシドーシス**」の**酸毒が中和**されます（ガン細胞は「乳酸」の蓄積によって生じている「乳酸アシドーシス」の「**酸毒**」を足場にして**成長・転移**していきます。ということは、この「酸毒」を「重曹水」の飲用でこまめに中和して消していけば、ガンの成長・転移する力（勢い）を削ぎ落していくことができることとなります）。ちなみに、医学的にも、ガン細胞は「**酸性の環境**」でしか生きることができず、「アルカリ性の環境」では生きられないことが解っています。

### ◆真菌の殺菌による効果

真菌が、ガンを含め様々な病気の原因となっていることは、例えば参考書籍⑤に示されています。また、ホウ素、ヨウ素、二酸化塩素、オリーブ葉エキス、アムホテリシンB（安全性の高い抗真菌薬。参考書籍④に処方してくれる歯科院リストあり）の方が真菌の殺菌効果は高いと記載されています。しかし、ここでは、安価で入手しやすく、安全性も高い重曹を選択。また、一番多い真菌の感染部位、そして軽視されている口腔の場合で、以下ごく簡単に説明していきます（歯周病有病率は、20歳代で既に約7割、30～50歳代は約8割、60歳代は約9割）。

口に真菌が感染して（多いのはカンジダ菌。以降代表してカンジダ菌で記載。感染原因は補足②参照）、口腔カンジダ症を発症します。口腔カンジダ症が重症化して、口にカンジダ菌が充満し、やがて唾液と共に、咽頭、喉頭、食道を始めとする消化管に流れ込みます。そして、消化管の内面の細胞を損傷させ、食道ポリープ、胃ポリープ、胃潰瘍、大腸ポリープ、痔疾などを発症させます（腎臓疾患の発症も多い）。その“前兆現象”として、**歯周病**は発症しています。**虫歯**になっています。この病因は**真菌**です。そこで**真菌がアルカリ性に弱いことを利用して、重曹で殺菌**します。

なお、真菌とガンとの関係は、例えば以下をご覧ください。

「がん、高治癒率の民間療法から見えてきた「真菌」との深い関係性」 [https://biz-journal.jp/2017/02/post\\_17981.html](https://biz-journal.jp/2017/02/post_17981.html)

## —補足②—発症・感染の原因（根本原因は食・生活習慣等ですが、以下には二次的原因の記載もあり）——

### ◆アシドーシス発症の原因

#### ◎内因性

- ・慢性腸内発酵による大量の酸の産生
- ・内分泌腺の機能異常（糖尿病、肝障害）による大量の酸の発生
- ・正常な腎臓の機能低下
- ・胃の壁細胞の機能低下による正常な塩基満潮の消失

#### ◎外因性

- ・誤った調理方法や生鮮青果物の欠乏による**塩基摂取不足**
- ・タンパク質の過剰摂取とリン酸塩・硫酸塩の産生による塩基の収奪
- ・ケト酸、乳酸、その他有機酸の発生と共に起こる**炭水化物と脂肪の消化不全**

これら二つのグループはアシドーシス発生の主要原因である。それ以外にも次のような可能性を考慮する必要がある。

（重曹）

- ◎空腹、発熱、下痢
- ◎肝硬変など肝臓疾患、胆のう疾患
- ◎心不全時の一般的低酸素血症
- ◎重大な身体負荷、中毒、窒息、低体温症
- ◎末梢部や脳の血行不全、火傷による局所的低酸素症
- ◎化学物質による中毒、細菌性毒素
- ◎白血病、骨髄腫、先天性乳酸アシドーシス
- ◎糖原病、アジソン病、甲状腺機能症候群、ウイルソン病
- ◎果糖不耐症、利尿剤
- ◎原発性・続発性アルドステロン症、コーチゾン治療

### ◆真菌感染の原因（＝身体が持つバリア機能が低下する原因）

本来、真菌（カンジダ菌）は、健康体ならば全く心配ありません。しかし、何か重い病気がもとで体の抵抗力が極端に弱まってきたり、抗生物質などの薬を長期間使用したりして、**正常微生物叢のバランスが崩れてくると**、他の菌を押しよけてカンジダ菌はとたんに体内で繁殖してくる危険性があります（＝日和見感染）。特に、**十二指腸や小腸で異常繁殖し**、弱ったこれらの消化管壁から組織内に侵入して病原性（感染性）を発揮してきます（腫れた歯肉からカンジダ菌が容易に血管内に侵入して、全身に回り発病という、口腔からの経路もあります。ですから、歯科での**歯肉の切除、歯石除去、盲嚢搔爬**等は大問題！！）。また、血液中に存在する「ソマチッド」で有名なガストン・ネサン氏は、ストレスや生活習慣など、何らかの原因で人の免疫力が弱まると、**ソマチッドはウイルス、細菌、真菌似の形態に変化して、宿主である肉体の破壊に関与していく**と述べています（つまり、健康な人の体の中にも既に菌の元となるものがあって、バランスを崩した時に、それが形態変化を起こす。ということは、**血液の状態を良好に維持する**ことがいかに重要かということを示している）。

以上のことから、**病原菌自体が病気の元凶なのではなく、拮抗関係というバランスを崩したことに**根本原因があるのは明らかです（ゆえに、特定の病原菌を退治しようとするのではなく、むしろ、バランスを回復させる食生活などの改善が根本策ということになる）。以下主にその視点で因子を挙げます。

- ◎年齢的な問題（未熟児や新生児、高齢者）
- ◎ストレス
- ◎栄養不良（無理なダイエットも）
- ◎他の病院による免疫能力の欠損や低下
- ◎白血球など食細胞能力の欠損や低下、好中球（真菌などを食べる白血球の一種）の減少
- ◎内分泌障害、糖尿病

などがあります。また、以上の内因のほか、外因となる要素もあり、それは、

- ◎ケガ・やけどなどの外傷、放射線の照射
- ◎ステロイド剤・免疫抑制剤・抗がん剤・避妊用ピルの使用（妊娠中、ホルモン治療中を含む）
- ◎抗生物質の長期使用
- ◎義歯、歯科処置（歯肉の切除、歯石除去、抜歯、盲嚢搔爬、歯周検査、抜歯など）

等です。この他、とくに表在性カンジダ症では、日常生活がカンジダ症の因子となることも多いようです。

- ◎便秘、過剰なアルコールや薬剤の摂取
- ◎肥満、不適切な食生活（精製糖質・動物性タンパク質の過剰摂取など）、過労
- ◎清潔でない下着の着用（締め付ける衣類、風通しの悪い衣類を含む）
- ◎皮膚の乾燥、清潔が十分でないとき、性交（オーラルセックスを含む）
- ◎皮膚疾患への間違った薬の使用、膈内の過剰洗浄

### —補足③—発症のサイン（目安的な例）—

#### ◆アシドーシス

- ◎歯が着色しやすい、虫歯になりやすい
- ◎舌が部分的に真っ赤になり、ひびや割れ目ができる
- ◎ビタミンB1欠乏症状

（重曹）

(気分が塞ぐ、不安を感じる、いらいら、落ち着きがない、物忘れ、疲れやすい、頭痛、息切れ、肝臓・腎臓の機能低下、体温・血圧低下、血糖上昇、全身がむくむ、手足先がしびれる、食欲不振等) 参考までに、B1 消耗要因は、飲酒量・甘いものが多い、インスタント食品が多い、過剰な運動・労働、過剰ストレス、加齢など。

- ◎電磁波過敏
- ◎動脈硬化症に分類された数多くの臓器疾患
- ◎末梢血流障害 (手足の冷えなど)
- ◎慢性下痢、過敏膀胱
- ◎不整脈
- ◎糖尿病
- ◎頭痛と三叉神経痛の悪化、あらゆる痛み (局所アシドーシス)、全身に広がる痛み
- ◎倦怠感、疲労困憊、腎不全、睡眠障害
- ◎皮膚障害、脱毛
- ◎ガン

## ◆真菌感染

### 【口腔内の兆候】

- ◎起床時の口の中のネバネバ、口臭
- ◎歯茎から出血、歯のグラグラ、歯周病、虫歯
- ◎舌・歯肉・口腔の粘膜等に白い苔上のものが付着・有痛性発赤、平滑舌や口角炎

### 【病気からの兆候】

- ◎眼科・耳鼻科疾患、扁桃の炎症、夜間無呼吸症候群、Bスポット、喘息
- ◎消化器疾患 (大腸ポリープなども含む)、アレルギー疾患、痔疾
- ◎脳梗塞、認知症、心臓疾患、腎臓疾患
- ◎人工関節に置換
- ◎糖尿病、自己免疫疾患、悪性腫瘍やHIV感染症など (=免疫能低下状態)

### 【服用している薬からの兆候】

- ◎ステロイドホルモン剤・抗菌薬・免疫抑制剤・抗がん剤・避妊用ピルなどを長期連用している

### 【その他】カンジダ菌との関連が証明されている症状、兆候、状態 (参考書籍②より)

慢性疲労、アレルギー、胃炎、胃痙攣、胃の膨張／膨満感／水がたまる／重苦しさ、インポテンツ、化学物質過敏症、過度のイライラ、花粉症、体の痛み、感覚・味覚・臭覚・視力・聴力の乱れ、気持ちの動揺、下痢、子供の過活動、集中力の喪失、多発性硬化症・エイズ・筋委縮性側索硬化症・紅斑性狼瘡、心臓病・クローン病・橋本病・内分泌腺機能不全・糖尿病・肝炎・脱毛症・白斑・卵巣炎・アジソン病・重症筋無力症・天疱瘡・統合失調症・アレルギー性鼻炎・自閉症・スプルー・睾丸炎・リウマチ・関節炎・ショーグレン症候群などのような深刻な退化病、頭痛、性欲喪失、生理の乱れ、生理前の不安／緊張／ふさぎ／気分の動揺、喘息、体重の変化 (増加、減少)、大腸炎、膣のイースト菌感染、臭い化学物質・煙に過敏になる、バクテリア・ウイルス・真菌類の感染、耳痛、不眠 (慢性、突発的、間欠的)、便秘、慢性的な感染症、慢性的な胸やけ、目まい、物忘れ

(参考書籍)

- ★①「ホリスティックメディシンとしての酸塩基平衡」ミヒャエル・ヴォルリチェック著 (2010年)
- ②「オリーブ葉エキスの力」M.ウォーカー著 (2011年)
- ★③「底なしの闇の癌ビジネス」ケイ・ミズモリ著 (2014年)
- ④「歯周病は薬で治る！！」生田図南著 (2009年)
- ★⑤「リウマチはうがいで治る」河北正著 (2018年) など